

なるとDeシネマニュース

第39回 上映会
2023年5月21日
日曜日



今も、
君の音楽で、
前を向ける。



- 一部: 午前10時～
- 二部: 午後2時～ (開場は30分前)
- 場所: うずしお会館三階 第一会議室





浅野大義／神尾楓珠

最初、実話ということ知らずに脚本を読ませていただいたのですが、映画みたいな、すごい青春だなと感じました。

本作で、浅野大義さんを演じる上で、いろいろな方たちからお話を伺い、彼は周りからの人望が厚く、とても愛されていたんだと感じ、映画ではその魅力や、そして彼が残してくれた生き様が、きちんと伝わる様に演じられたらいいと思います。



宮田夏月／福本莉子

初めて脚本を読んだ時、大義くんと同じ20歳の自分を重ねて涙が止まりませんでした。そして大義くんの言葉や懸命に生きる姿に沢山の勇気を貰いました。

今も実在している方を演じるのは初めてのことで不安もありましたが、監督指導のもと現場に来てくださったご本人の雰囲気や自分が実際にその場で感じたことを大切に演じさせて頂きました。

大義くんが繋いでくれたご縁がこの映画を通してより沢山の人の心に届くことは、また1つ大義くんが起こした奇跡のように思います。



秋田豪／前田航基

20歳のソウル！

熱い部活生活、熱い友情。

1人の男とその生き様に魅せられた沢山の若者たちが紡いだ本当の物語です。

本当の友達とは何か、命を燃やして生きるとは何か、大切だけど、つい忙しい日常の中で忘れてしまう事を思い出して頂けると幸いです。

見てくださった皆さんの生きる活力になれば幸いです。



ユツコ／佐藤美咲

今回、母校の映画に出演させて頂く事となり、とても嬉しいです。

初めて演技をさせて頂いたのですが、秋山監督や脚本の中井さんを始め、キャストの皆様、スタッフの方々、高橋先生、市船吹奏楽部の皆さんのお陰で最後までやり切ることができました。

人間は皆、人生の終わりが来るように、何事にも終わりがあります。だからこそ辛くても頑張れたり、今を楽しめることができると思います。この映画を見て今をどう生き生きするか考えるきっかけになればと思います。



滝沢翔／松大航也

僕はこの作品で、応援団の中に入って「市船soul」を演奏させて頂きました。

その時の曲の力強さは本当に凄かったです。

この曲がどんな思いで作られ受け継がれているのか、観ていただく皆さんの心に何かを伝えることが出来るのではないかと思います。



黒木まどか／石崎なつみ

3年前、図書館でたまたま手に取った本がこの「20歳のソウル」でした。

白や黒の本の列にぽつんと、鮮やかな青空色の本。その日のことは今でも鮮明に覚えています。

誰かのために自分の人生を全うする、その大義くんの生き様に衝撃を受けました。

若いからすごいとかそういうことではなく、ただ純粋にその真つ直ぐさがかっこいいと思った。

そんな大義くんが生き続けるこの作品に携わられたこと、大義くんをサポートする看護師として共に生きられること、こんなに幸せなことはありません。



浅野桂子／尾野真千子

特別な母親役でした。

やはり実在する母というのはとてもやりにくいものです。ですが、とてもやりがいを感じました。

本当の話に失礼のないように、当時を思い出して辛くさせるだろうとわかっていましたが家族の方に当時の事を質問し、撮影に挑みました。

おかげさまで息子を全力で愛し、物語に向き合う事ができたように思います。



佐伯斗真／佐野晶哉

(Aえ！group/関西ジャニーズJr.)

はじめての映画出演がこの作品であったことにとても意味を感じています。

監督は、僕も大義くんと同じようにずっと音楽のそばで生きてきたことに触れ「存在するだけでいい」と言っていたき緊張を解いてくださいました。

撮影前から市船高校のジャージを着てピアノやドラムを練習していたので、先生や部員みんなの中での撮影は二回目の高校生活のようでした。

ひとりでも多くの方に大義くんの作った曲と生き様が届け、僕が勇気をもらったように誰かの勇気になったら嬉しいです。



田崎洋一／若林時英

この作品のオファーをいただいた時「なにかしらの楽器を演奏してもらいます」とプロデューサーさんから事前に聞いており、僕と体積がほぼかわらないユーフォニウムの担当になった時、トランペット担当の前田航基君を羨ましく思ったのは内緒です。

管楽器を演奏したことがなかったので、撮影前から楽器練習の時間を作ってもらい、猛練習して撮影に挑ませていただきました。

この作品を通して「市船soul」が皆さんにとどきますよう願っております。



ミナ／宮部のぞみ

この作品が初めての映画出演になるのですが、監督からは「演技しなくていい、自然な感じで」と言ってもらいました。最初は戸惑いましたが、お話ししていくうちに緊張を解いてくださいました。

撮影前に市船高校吹奏楽部のみなさんと一緒に、練習に参加させていただいたのですが、部員の高い意識と絆を感じとても感動しました。私は小中学校で吹奏楽部に所属していたのですが、あまりのレベルの違いに驚きました。

映画を観ていただき、ひとりでも多くの人の心にこの作品想いが届いたら嬉しいです。



浅野千鶴／池田朱那

浅野千鶴役を演じさせて頂き、池田朱那です。

とても強い愛に包まれた家族、恋人、先生、そして仲間たちのお話です。

私自身、好きな兄がいるので、このお話が実話だという事で胸が締め付けられる思いを共感しました。

いま家族や友達と過ごせる毎日が、好きなことをやれる事が、どれだけ幸せなことなのか改めて感じられる素敵な作品です。

ぜひ、大切な人とご覧いただきたいです。



浅野正義／菅原永二

浅野大義くんの作った「市船soul」は今もこの先も演奏され続けるでしょう。

大義くんの音楽にのせた想いは、魂は生き続けるということだと思います。是非劇場に足をお運びいただき、その想いを感じていただけたらと思っています。



浅野忠義／平泉成

脚本を読んで、孫を想うおじいさんの心情に共感しました。僕も大義さんのおじいさん同様、実際の孫の写真を山ほど撮っていて、おじいさんの気持ちがとてもよく分かります。
おじいさんにとって可愛くてたまらないお孫さんだったんだと。
この作品は、何か所も胸にジーンとくるシーンがたくさんあります。
映画を観て泣きたい方、何度でも感動して泣ける作品です。ぜひ映画館でご覧ください。



消防隊員／埴宣之

(ナイツ)

原作を読んでもとても感動していたので、出演のお話を頂いた時はすごく嬉しかったです。
消防隊員の役だったのですが、臨場感のあるシーンが撮れました。
佐藤浩市さんも少しだけの絡みでしたがすごく優しく接して頂きました。
演技は自信があまり無いほうなのですが、今までの役者人生の中で会心の演技ができたと思います。ぜひご覧いただければと思います。



木村貴教／石黒賢

(友情出演)

人は亡くなった後にどんな生き方をしたのか伝わる事があり、告別式にたくさんの仲間が集まった事が、大義さんの人となり物語っているんだろうなと思いました。
コロナ禍で、会いたい人に会えない状況になり、一期一会、今が大事なんだと、当たり前の事を改めて感じるようになりました。
本作を観て、今、相手と向き合う事の大切さを改めて感じていただけると嬉しいです。
こういう時代だからこそ意義がある作品だと思います。



星野拓朗／高橋克典

僕は彼に病気を告知し、最後まで見届ける医師を演じさせていただきました。
やるせない、胸が締め付けられるお話ですが、主人公の勇気と、病と向き合い精一杯生ききる姿に、逆に力を与えられます。彼の人生に伴走するような気持ちで共に感じていただけたらと思います。



高橋健一／佐藤浩市

市船・吹奏楽部の生徒たちが演奏しているのを見させていただき、昨今、このコロナで演奏できる場、表現できる場が失われた生徒たちが、"何か"を伝えようと、とても生き生きと演奏していました。
その姿を見て、この映画で、そして浅野大義さんの人生を通して、自分自身もこの子たちのその"何か"を伝えたいと思います。



監督／秋山純

四年前の朝、新聞で大義くんの記事を読みました。彼の生きた証を多くの人に知ってもらいたい。その想いは、たくさんの仲間、素晴らしい俳優陣へと縁を繋ぎ、映画として実を結びました。

20歳のソウル 船橋市内ロケ地ガイド

こひつじ園



3月30日(土) 高橋克典イン、終日、病院の撮影。
4月9日(金) こひつじ園にて病院ロケセット。
4月10日(土) 前日に続き、病院ロケセットにて終日撮影。
ナイトシーンでは、雨降し、神尾楓珠、重いシーンの連続。
高橋克典クラックアップ。

船橋市民球場



4月1日(木) 船橋市野球場にて、高校野球シーンの撮影。
グラウンドでリアルな野球シーンを撮影しながら、スタンドには吹奏楽部、野球部、ダンス部、保護者の皆様、エキストラの皆様。
総勢700名の協力で、安全に撮った。

船橋市民文化ホール



3月28日(日) 船橋市民文化ホールに移動してコンクールの撮影。
市船吹奏学部保護者会の皆様300名の全面協力。

船橋大神宮



3月18日(木) メインスタッフによる安全祈願および大ヒット祈願

高瀬下水処理場



4月2日(金) 病院の屋上のシーンを撮影。
4月9日(金) 神尾楓珠、屋上のナイトシーン。雨を担う。

ゆいまき斎苑



4月17日(土) 164名による演奏が行われた大義くん告別式の撮影を、同じ場所をお借りして撮影。

海老川の桜並木



3月24日(水) 桜並木にて、神尾楓珠、佐野晶哉、前田航基、若林時英のシーン。

市立船橋高等学校



3月24日(水) 屋上にて、吹奏楽部、佐藤浩市激走シーン。素晴らしい晴天。
3月27日(土) 卒業式の撮影。佐藤浩市指揮シーン。
4月6日(水) 市船音楽室にて、佐藤浩市メインで撮影。
4月17日(土) 市船に移動して、演奏シーン撮影。クラックアップ。



なるとDeシネマ シネマ通信

生活にうるおいと楽しみを！そして、明日の元気を！

本日は“なるとDeシネマ第39回上映会”にご参加いただき、有難うございます。
“なるとDeシネマ”は地域の皆様のご協力を頂き、上映会を続けております。

コミュニティはうす TSUDOI

「映画をより良い環境で鑑賞出来る映画館をお願いしたい」

鳴門市ではこの条件を満たすためには、音響の良い上映場所や駐車場など運営する人材と多額の費用が必要になります。そのためには、映画に興味のある若者(高齢化している)に“なるとDeシネマ”に入ってもらい、様々な組織(商工会・吉本など)を巻き込んで協力を頂き、費用についてはクラウドファンディングという方法もいいのではないのでしょうか。

また、現代の子どもの楽しみは主にゲーム等で、全体的に家庭も孤立化しているように感じます。親子映画など社会性(学べる)のある映画を上映して、自己啓発や意識の高い人を育てるのも必要ではないのでしょうか。映画を通じて文化を育てていく役割は非常に大きいと思いますので、頑張っけて欲しいと思います。



ひかりや

「なるとDeシネマ」は鳴門市がやってる行事、と最初は思っていました。ところが聴けば、「映画館のない鳴門市で、いい映画を観る機会をつくりたい」との思いから、市民が自分たちで始めた手作りの映画鑑賞会のこと。

始めることの難しさと、さらにそれを続ける上での数々の困難を乗り越えて、10周年には吉永小百合さんが挨拶に駆けつけて下さいました。それがもう来年、2024年には20周年を迎えられるとのこと。私も鳴門市民の一人として、できる限りの協力を続けて参ります。まずはチケット買って、観に行くことから始めましょう！

★「とんび」の原作者重松清をもっと知ろう！

「とんび」上映日の掲示作品！

第38回(前回)上映した作品「とんび」は、重松清の大ベストセラー小説「とんび」を映画化したものでした。不器用だけれども大きな愛情を持つ父親とその息子の絆を描いたこの小説で、重松清は直木賞を受賞しました。

作品の良さは言うまでもなく、こんな立派な賞を受けられた重松清について、少しでも皆さんに学んでいただきたく、当日模造紙大の用紙に「本日上映作品は、直木賞受賞作家の作品であること」「重松清作品の作風」「作品の数々」について、分かりやすくカラフルに書き、廊下に掲示しました。

